

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0270101652		
法人名	社会福祉法人 明恵会		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	〒030-0915 青森県青森市小柳1丁目17-17		
自己評価作成日	平成30年11月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

夏に納涼祭を開催し、利用者・ご家族の方々、地域の方々と交流できる機会を設けています。当事業所の理念の下、利用者一人一人の尊厳を大切にして、健康で安心して暮らせるように努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

住宅街に立地し、同一敷地内にてデイサービスセンターや居宅介護支援事業所も運営されている。そのため、納涼会が法人全体で開催されたり、地域住民と交流できるお茶会が企画されるなど楽しみも多い。また、近隣の他法人グループホームとは、持ち回りで場所を提供して、管理者だけでなく介護職員も参加する意見交換会が行われたり、共通のパンフレットを作成して空室情報を共有するなど、事業所間での交流も定期的に行われ、同業者との交流、学習の機会を作ることに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	公益社団法人青森県老人福祉協会			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示するとともに、毎朝、唱和することにより、全職員が意識し実践できるようにしています。	全職員で作成した理念を掲示し、職員の入社時には説明をして理解してもらっている。また、毎日の朝礼時には3回復唱し、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度、初めて納涼祭や隣の神社の宵宮にも参加し地域の方々との交流を図りました。	法人主催の納涼祭には地域住民や保育園児も多数参加していただいている。また、同一敷地内のデイサービスセンターに保育園児の訪問があった際は利用者が出かけるなどの交流がみられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症について理解して頂けるよう伝えています。また、近隣大学生の実習受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議には、町会長、民生委員、地域包括センター、ご家族の方々が参加され、日々の生活を写真で紹介しています。また、外部評価の結果を報告しています。	年間を通して参加者は同じメンバーで開催している。参加者よりレクリエーションのアイデアを頂き、取り入れている。グループホームの利用者の近況や行事内容が報告されている。また、外部評価の報告もしており、改善点などについても協議されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談等は直接青森市に出向き、指導を受けるようにし、また、地域包括支援センターの支援を受けながら近隣グループホームとの情報交換や相談する機会を設けています。	利用者の紹介を受けたり、地域での困りごとを相談している。また、2か月に1回近隣グループホーム5か所が集まり、テーマを決めて情報交換しており、毎回、地域包括支援センターの職員が同席してアドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体的拘束等の適正化のための指針」を作成し、職員へ周知徹底しています。日々のケアで、職員同士再確認し支援しています。玄関の施錠は夜間のみです。	グループホームで指針を作成し、それに基づいて研修は行っているが、今まで身体拘束の対応をした利用者はいない。グループホーム内で研修会を開催し、マニュアルは全職員に周知している。グループホーム内にはポスターを掲示するなどしながら、日々、啓発活動につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学習し、ポスター等も、いつでも見られる場所に掲示しています。また、日頃より言葉づかいには注意するように話しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用しているケースがなく、権利擁護に関する学習会は行っていないが、今後計画し研修に取り入れていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、補足しながらわかりやすく説明しています。また、不安なことや疑問等に答え、安心して利用できるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時ご家族に近況報告をしたり積極的に話しかけ、意見や要望を聞きその内容を職員全員で共有し、ケアに繋げていまうs。	面会時には、積極的に家族に声をかけて要望などを確認している。要望があった場合は職員全体に伝達して日々のケアに活かしている。他、利用者の近況などは担当職員が手書きで便りを作成して郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見交換や日頃の業務で意見が出た時は管理者職員で検討し、理事長に報告して運営に反映させています。また、年に1回辞令交付時理事長と個人的に話す機会があります。	職員会議や業務の中で意見集約をすることが多いが、理事長がグループホーム内に常駐しているため、直接要望を伝えたい職員はいつでも話ができる環境がある。調理員の採用等、人員配置等についての提案が実現されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長は、管理者等の意見を聞きながら労務士と相談しキャリアパスの仕組みの整備ややパースデイ休暇を設ける等やりがいのある職場づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長は、職場内外の研修参加等に理解し支持してくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度も2ヶ月ごとの圏域内のグループホームの意見交換の場である交流会の取組を理解してくれています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅で行っていた生活を維持できるように、ご本人に希望や思い・不安に感じている部分を聴き取り、ニーズに応えられるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思い・意見や要望を聞き取り、受け止めながらご家族の信頼関係を構築して、安心して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い・状況等の情報を収集して、今までの生活も大切にしたい支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方のペースに合わせながら持っている力を発揮できるよう状態状況、他利用者との関係を考慮しながら一緒に行っています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回本人の様子を手紙に記載し、行事等の写真を同封して近況報告をしています。また、ご本人の希望を叶えるためご家族に協力をして頂き、電話連絡や面会の要請をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会、ご家族に協力をして頂き行きつけの美容院や住み慣れた自宅に行ったり、墓参りに行きます。	家族に協力をしてもらい、帰宅願望などの不穏時には自宅に向かったり、行きつけの美容院に出かけるなど適宜対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握し、A・B棟共に交流し。お互いが助け合える場面の提供・仲介等、より良い関係が築けるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時に今後も相談や支援に応じることを伝え、退所後も病院等に面会に行ったり、相談を受けたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のニーズを把握し、意思伝達が困難な時にはご家族に話を聴いたり、生活歴等から把握し、本人本位の意向にできるよう努めています。	利用者の表情や行動などから判断したり、コミュニケーションの中から確認したりするなどしているが、意思伝達などが難しい場合は家族に確認して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人担当のケアマネから情報収集し、今までの人生の経過を把握し、理解するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を申し送りや介護日誌等で過ごし方や心身状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の要望を伺い、現状を把握し職員間で話し合い、介護計画に反映できるようにしています。	本人や家族から事前に要望などを確認した後、主治医や訪問看護師からも情報収集し、職員で話し合って計画書を作成している。利用者の状態に応じて3～6か月毎に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や介護日誌・申し送り等で生活状況を記録し、皆で共有し変化があった都度話し合い見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人的な買い物や医療機関への受診、役所への手続、入所退所時の送迎等を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して地域の情報を得て、活用できるものを選んでいきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医の継続ため、ご家族の協力を得ながら送迎する支援を行っています。	家族の協力も得ながら、入居前の主治医をそのまま継続している。また、受診時は家族と病院で合流し、そのまま診察に付き添いをしていただくことで心身状態も理解いただいている。歯科医による訪問診療を月1回実施している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ですが看護師に利用者の健康管理について相談し支援を仰いでいます。必要な時は受診に同行してくれ、適切な看護が受けられるように支援してくれます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院関係者・ご家族と密に連絡をとり、状態に応じて話し合い、早期退院に向けた関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合にはご家族と十分話し合い、今後の方針を主治医・ご家族と一緒に考えていく姿勢を示しています。また、早い段階で特養の申し込みをしています。	看護職員の配置はあるが非常勤のため、現状では、経口摂取が可能な状態までを入居対象としていて、医療処置がなければ主治医と相談しながら看取りの対応も可能としている。グループホーム内では看取りに伴う研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルの確認や申し送り等で確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の火災や災害を想定した訓練を実施しています。	水害の可能性はないため、年3回(昼夜の火災と夜間の地震を想定)の訓練を行っている。食料や水の備蓄と暖房機器は準備している。理事長が消防団員のため、災害時は協力体制が築かれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けや表情・態度に気をつけ、尊厳を持った対応を心がけています。また、入浴・排泄もプライバシーに配慮して対応しています。	排泄介助時は、利用者の行動等からさりげなくトイレ誘導につなげたり、入浴は着脱衣の時など、スクリーンを使用してプライバシーにも配慮している。声掛けなども、気になった時には職員を交代させるなどの対応もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中などで、ご本人の要望や思いを探ったり、自己決定できるような場面づくりをして引き出すようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせてご本人の希望に沿った支援をしています。希望を伝えられない方には、選択肢を提供し自己決定できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活等で着たい服、化粧等自分のできる環境を作っています。また、散髪、パーマ、毛染め等もご本人の希望に沿った対応をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決める時は食べたいものを聞き取ったり、誕生日にはご本人の好きなメニューを取り入れています。また、メニューの紹介や配膳下膳の役割や茶碗拭き・お絞りたたみをお願いしています。	利用者の誕生日には好きなメニューを取り入れたり、月に1回、利用者のみでおやつ作りを楽しんでいる。また、毎食、パン食の利用者もいるため個別対応している。配膳・下膳など、できることは利用者が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日個々の摂取量を記録し、食事量が減少している時は補食や食べやすい形に変えたり、水分補給が必要な方や制限のある方を職員共有して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者が毎食後口腔ケアを実施し、清潔保持に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録をつけパターンを把握し、時間誘導や声掛け等をして失敗を減らし、トイレでの排泄が自然に行え自信が持てるように支援しています。	個別に排泄パターンを把握し、できるだけオムツではなく、トイレ誘導につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表、水分摂取量、食事摂取量の把握に努め、飲食物の工夫やここに合わせた運動の働きかけを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日に心身の状態で入浴できなかった時は、状況を見て別の日に入浴して頂く。また、入浴剤も選んで頂いたり、温度や時間も個々に応じた支援を行っています。	心身の状態に合わせて週2回の入浴対応をしている。洗髪のみ毎日希望している利用者もいるため、希望があればできる範囲で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ自由に睡眠、休息がとれるようにしています。また、居室の照明や湿度にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前、複数の職員で氏名・時間等間違いがないかを声を出しながら確認しています。また、職員は薬の目的や副作用・用法等理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴からご本人の得意とする役割や趣味を行なえるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は職員の入れ替えが多く、全員での外出をすることはできなかったが、暖かい日には外に散歩に出かけ、気分転換を計るようにしています。	グループホームで外出の機会も作っているが、個別に希望があれば、職員が外出支援をしている。敷地内も広いので、散歩をすることもある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、少額のお金を持ち管理している方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望によりいつでも手紙を書いたり、電話で話したりできるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースではブラインドを利用して遮光の調整や音・室温にも配慮しています。また、壁面には季節を感じられるよう、みんなで協力し作品を作り飾られています。	利用者が好きな場所でゆっくり過ごせるようソファや椅子があり、空間には適度に光が入って明るく開放感がある。利用者で作成した壁面の装飾は、毎月交換している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	A・B棟自由に出いりができ、楽しく団欒ができるようにソファや食席にて自由に過ごして頂いています。一人になりたい時は、居室・玄関ベンチで過ごしている方もおります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの制限はなく、馴染みのものを置いてもらい、安心して過ごせるようにしています。	家族に協力してもらい、馴染みのものは、居室内に自由に置いてもらっている。仏壇や位牌を持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状況に応じて目印をつける等をして安全で自立した生活が送れるようにしています。		